

# 神戸女学院学生及び生徒の宗教 態度と宗教的行為に関する調査

溝 口 靖 夫  
茂 洋

目 的  
方 法  
現 状  
結 果

1. 宗教的情操尺度の調査 (第Ⅰ型式)
2. 宗教的行為インベントリーの調査 (第Ⅱ型式)
3. リファレンス・グループの調査 (第Ⅲ型式)

要 約 と 結 論

## 目 的

近時、わが国のキリスト教主義学校教育が著しく世俗化してきたことが指摘され、関係団体の研究会又は協議会などにおいても、しばしばこれが議題となっている。この世俗化“secularization”という言葉の意味するところには種々の要素が考えられる。たとえば、ピューリタニズムに対するモラルの方面での非戒律的傾向であるとか、いわゆるミッション・スクールという既定概念におけるキリスト教主義学校の一般学校化の傾向であるとかの如く、キリスト教主義学校としての殆ど何ら顕著なメルクマールを認めることができなくなったという様な意味において用いられているようである。

本大学の社会学研究室では昭和36年に本学とともに、他の三つのキリスト教

主義女子大学を含めて、キリスト教女子大学生の宗教意識及び生活態度における民主化の度合に関する研究を行ったことがある。その研究においては、主として、上述のキリスト教主義女子大学生の世俗化の問題を明治・大正時代のピューリタン意識との比較において考察した。たしかに明治初期のピューリタンの戒律尊重の意識と現代の学生のそれらから自由なモラルの意識は特徴的であったが、他面、学生の社会意識における近代化又は民主化の度合も相当進境を示していることが実証されたのである。しかしそのときの結論として考えられたのは、宗教意識において世俗化の反面、社会との距離が短縮されたこと及び、民主化の面において、学生の所属する客観的な諸集団よりも、むしろ、彼女らが主観的に自己を所属させている準拠集団（reference group）が彼女らの社会的態度の有力にして重要な指数（index）となっているのではなかろうかということであった。<sup>\*1</sup>

この調査以来、宗教意識が学生の人生観・世界観及び日常の行動及び基準にいかん作用し、はたらいているかと云う宗教意識の一般的観念及び存在への作用面と、集団特に準拠集団の宗教意識への作用面との考察が課題となっていたのである。世俗化と云われるけれども、キリスト教主義学校の学生生徒ははたして殆んど宗教的関心を失ってしまったのであろうか。又その行為において宗教的モチーフや動力はほとんど認められなくなったのであるか。又、学生生徒のその方面の意識及び行為に対して宗教教育の及ぼす作用ははたしてどのようなものであるか。それらに就いての実態をたしかめることを課題としていた。

幸い本年は創立九十周年を迎えたので、学院の教育の本質的な性格の自覚のために、これらの問題をテーマとする学生生徒の宗教態度と宗教的行為に関する実証的認識を要請されたのである。先年の調査は大学の学生に限られたが、今般は調査対象が高等学部及び中学部の生徒にも拡大されたことは、研究の興

---

<sup>\*1</sup> 難波・雀部・溝口『キリスト教主義女子大学生の宗教意識についての実証的研究』、『キリスト教主義女子大学生の生活態度における民主化の度合に関する実態的研究』（神戸女学院大学論集 9 巻 3 号参照）

味を増大せしめるものである。

こうして、今般は、学院チャプレン室において、この調査を実施したのであるが、この調査の目指すところは、“宗教教育”という角度から、学生、生徒の宗教態度及び行為を見ることである。それはまた、現在の学院の宗教教育のためだけではなく、将来への記録としても、この時点におけるドキュメントとしての意義を有することであり、又、対外的にも、既に学界で標準化した尺度を用いることによって、本学院の学生、生徒の宗教態度及び行為の客観的なオリエンテーションに便宜であることを考え、以下述べるところの調査方法を用いることにした。

## 方 法

本学院中高部生徒、大学生全員が、本調査の対象となり、昭和40年7月上旬に実施された。各校の在籍数、回収票数、回収率は、次の通りである。(Table 1)

Table 1. 調 査 票 数

	在 籍 数	回 収 票 数	回 収 率
中 学	427	412	96.5
高 校	484	470	97.1
大 学	1115	995	89.2
全 学 院 合 計	2026	1877	91.2

調査には質問紙を用い、対象者に自分で記入してもらった。この調査票は、すでに安藤延男<sup>\*1</sup>によって標準化がなされているものである。今回の調査で標準化された質問紙を用いたのは、特定の題目についての各質問項目群の妥当性と信頼性がすでに確かめられていること、そしてこの調査票に記入した答が一定の仕方 で数量的にあらわされることによって評定、比較、診断が可能であること、さらにこの調査票がすでに幾つかの学校生徒や教会出席者に対して実施されているので他校との比較の便があることなどによるためである。

本調査票は、宗教的情操尺度、宗教的行為インベントリー、および宗教的態

度形成に関連をもってリファレンス・グループについての、第Ⅰ、第Ⅱ、第Ⅲの質問型式から成立している。第Ⅰ型式つまり宗教的情操尺度の質問は32問から成り、これらの質問は4個の下位尺度に分けられており、それらは「神の愛への絶対的信頼」、「神の義と審きに対する畏れの感情」、「神への絶対依属感情」、および「信仰による平安」を測定する尺度となり、これら4つの下位尺度得点は合計されて尺度総合点となる。第Ⅱ型式つまり宗教的行為インベントリーの質問は22問から成り、これらの質問は「基督教と関係のある日常生活、もしくはそれに直接影響する行為の諸側面に関するもの」(\*1,3のp. 62)である。第Ⅲ型式つまり宗教的態度形成に関連をもつリファレンス・グループについての質問は、個人のキリスト教的な態度形成に対して、いかなる人々やグループが影響をもっているか、いいかえれば個人にとって関係の深い父や母、親友、学校当局などの人々やグループが、キリスト教に対してとる態度を対象者に知覚させ、それらと対象者の宗教的態度との関連を求めようとするものである。

## 現 状

先ず本調査の対象者の宗教、両親の宗教、父母以外の家族内でのキリスト教信者の有無、キリスト教主義学校での生活何年目、およびキリスト教会で受洗者の数は、次表の如くである。(Table 2,3,4,5,6)

- 
- \*1,1. 安藤延男 “宗教的情操の因子分析的研究” 『教育・社会心理学研究』第3巻2号(1962,12) pp.54—63.
  2. 安藤延男 “宗教的情操尺度の標準化—主として基督教的立場から—” 『教育・社会心理学研究』第4巻2号(1963,12), pp.143—155.
  3. 安藤延男 “宗教的行為インベントリーの標準化—とくに基督教との関連における—” 『教育・社会心理学研究』第5巻1号(1965.9), pp.61—73.
  4. 安藤延男 “宗教的態度形成におよぼすリファレンス・グループの影響” 『教育・社会心理学研究』第1巻1号(1960,6) pp.84—95.

Table 2 本人の宗教

	仏教 1.	キリスト教 *3 2.				神道 3.	その他の 宗教 4.	無宗教 5.	DK	計
		イ	ロ	DK*4	計					
J *1	15	5	149	14	168	—	3	144	21	351
S *2	10	8	108	16	132	2	—	246	20	410
大 学	38	10	155	8	173	1	6	580	26	824
計	63	23	412	38	473	3	9	970	67	1585

\*1 Jは中学部 \*2 Sは高校学部 \*3 イはカトリック、ロは新教

\*4 DKは「わからない」の符号

Table 3 両親の宗教

	2人とも キリスト教 1.	父だけ キリスト教 2.	母だけ キリスト教 3.	どちらも キリスト教 でない 4.	DK	計
J	20	5	14	310	2	351
S	17	7	23	361	2	410
大 学	16	9	34	743	12	824
計	63	21	71	1414	16	1585

Table 4 父母以外の家族内でのキリスト教信者の有無、本人との続柄

	イ. 信 者				ロ. 続 柄								
	1. いる	2. いない	0. D.K.	計	1. 祖父	2. 祖母	3. 兄	4. 姉	5. 弟	6. 妹	7. その他	0. 不明	
J	36	300	15	351	2	9	5	13	7	5	20	2	
S	37	356	17	410	3	6	8	21	1	5	7	21	
大学	77	717	30	824	4	11	18	36	8	13	7	6	
計	150	1373	62	1585	9	26	31	70	16	23	34	29	

Table 5 キリスト教主義学校での生活何年目

	何 年 目										計
	1.	2.	3.	4.	5.	6.	7.	8.	9.	0. D.K.	
J	112	94	126	12	2	—	1	—	1	3	351
S	4	5	33	125	119	105	5	9	5	—	410
大 学	148	117	109	88	11	7	76	94	165	9	824
計	264	216	268	225	132	112	82	103	171	12	1585

Table 6 キリスト教会で洗礼をうけているか

	洗 礼				1. 洗礼をうけた年令 (満)						計
	1. はい	2. いいえ	0. D.K.	計	1. 0~5	2. 6~10	3. 11~15	4. 16~20	5. 21才~	D.K.	
J	16	334	1	351	4	5	6	—	—	1	16
S	41	368	1	410	2	1	22	16	—	—	41
大 学	106	701	17	824	2	1	36	57	3	7	106
計	163	1403	19	1585	8	7	64	73	3	8	163

受洗者の各校生徒数との割合は、中学部では 4.6%、高等学部では10.0%、大学では12.9%にあたる。

### 結果 1. 宗教的情操尺度の調査 (第 I 型式)

宗教的情操の因子構造を明らかにするために、安藤延男の作製した資料を元にして、32項目の質問をし、4つの因子分析を行った。

因子の解釈は、安藤延男によれば、つぎの通りである。第1因子は神秘的、超越的な存在としての神と、神の愛と救いに対する信頼をあらわし、その神概念に、新約的なもののあることが考察された。Otto の云う *fascinans* の語から *f* 因子と呼ぶ。第2因子は、神の裁き、神の畏れ、罪の意識をあらわし、信仰による救いへの確信に関するもので、その神概念には旧約的なものがある。これを Otto の云う *majestas* の語から *m* 因子と呼ぶ。第3因子は、神への絶対服従、神中心の態度を表わす因子で、Schleiermacher の *Abhängigkeitsgefühl* の語に従って *a* 因子と呼ぶ。第4因子は、信仰による心の平安と充足感の因子であり、ギリシャの *eirēnē* から、*e* 因子と呼ぶことにする。<sup>\*</sup>

先ずこの第1型式の質問およびその総合点をのべる。(Table 7)

\* cf. 安藤延男 “宗教的情操の因子分析的研究” 『教育・社会心理学研究』

第3巻2号 (1962,12) p. 5.

Table 7

## 第 I 型 式

(答え方) 次に、宗教についての32の意見があります。これらを一つ一つ読んであなた自身が各意見にどのくらい賛成か、または、どのくらい反対か、あるいは、どちらとも言えないか、を判断して、それぞれ右の方にある線の上の五つの段階のうち、適当な所に○印をつけて下さい。賛成か反対かは、すべてあなた自身の経験によって判断して下さい。抜かさないで、全部の項目に残らずお答え下さい。

- |   |      | 非<br>常<br>に | 賛<br>成 | ど<br>ち<br>も<br>な<br>い | 反<br>対 | 非<br>常<br>に |
|---|------|-------------|--------|-----------------------|--------|-------------|
| 1. 社会や自然の中にあるものは、どんなにすばらしく見えても、すべて消滅する(きえてなくなる)が、神だけは、絶対に変わらないのである。 | (11) |             |        |                       |        |             |
| 2. 困ったときや、悩(なや)んでいる時、神は必ずわれわれを助け、強めてくれる。                            | (12) |             |        |                       |        |             |
| 3. 私は、神の愛をひしひしと感じたことがある。  | (13) |             |        |                       |        |             |
| 4. 神の力によってのみ、人は新たに生れかわることができる。                                      | (14) |             |        |                       |        |             |
| 5. どんなに世間(せけん)の人から迫害されても、神に従って生きたい。                                 | (15) |             |        |                       |        |             |
| 6. 神を信ずるものには、どんな場合にも救いが与えられる。                                       | (16) |             |        |                       |        |             |
| 7. 私たちが、自分の心にかくしていることを、神はすべて見抜いてしまう。                                | (17) |             |        |                       |        |             |
| 8. 人間は、もともと価値のないものであるが、神がそれを愛して下さるのだから、互に、尊重し合わねばならない。              | (18) |             |        |                       |        |             |
| 9. 私の心の中には、神にすべてをまかせて、頼りたいという気持ちがある。                                | (19) |             |        |                       |        |             |
| 10. 私たちの生命の根源(みなもと)は、神である。  | (20) |             |        |                       |        |             |
| 11. 高い山などに登った時、私は、それを征服したという気持ちよりも、大自然の偉大さに対して、へりくだった気持ちになる。        | (21) |             |        |                       |        |             |
| 12. われわれが、不安を感じたり、いらいらしたりするのは、つまるところ神を信じないからである。                    | (22) |             |        |                       |        |             |
| 13. 人からどんなに誤解されても、神が私の心を知っていてくれると思うと、安心する。                          | (23) |             |        |                       |        |             |

- |   | 非<br>常<br>に | 賛<br>成 | ど<br>ち<br>も<br>な | 反<br>対 | 非<br>常<br>に |
|---|-------------|--------|------------------|--------|-------------|
| 14. どんなに心の中で、よいことをしようと決心しても、私はいつも、わるいことをしてしまう。                                  | (24)        |        |                  |        |             |
| 15. どんなに悪いことをした人間でも、心から神を信じるものは救われる。  | (25)        |        |                  |        |             |
| 16. 人類が、自己の力にうぬぼれて神を信じないならば、現代の文明も、近いうちにほろびてしまうだろう。                             | (26)        |        |                  |        |             |
| 17. いくら豊かな生活をしていても神に従わない生活は、ほんとに幸福だとはいえない。                                      | (27)        |        |                  |        | ※           |
| 18. よく考えてみると、私が、今ここで生きているということには、神秘（不思議）な力がはたらいている。                             | (28)        |        |                  |        |             |
| 19. ある人の人生がよかったか、つまらなかったか、を判定するには、何よりもまず、その人が神の心に従って生きたかどうか、ということを考えてみなければならない。 | (29)        |        |                  |        |             |
| 20. 将来、もっと科学が進めば、人間は宗教によらないでも、ほんとに幸福な生活がおくれるようになるだろう。                           | (30)        |        |                  |        |             |
| 21. 自殺は、自分の意志で生命を左右しようとするものであるからいけない。   | (31)        |        |                  |        |             |
| 22. 自分ひとりが救われても、すべての人が救われないならば、私は、ほんとうの幸福を味わうことはできない。                           | (32)        |        |                  |        |             |
| 23. 私たちは、神の心を考えずに、ただ自分の欲望だけにふけることはつつまねばならない。                                    | (33)        |        |                  |        |             |
| 24. どのような宗教も、社会の有力者や支配者たちの道具として利用される。   | (34)        |        |                  |        |             |
| 25. 人間の眼には不幸に見えるできごとの中にも、神の恵（めぐみ）があるものだ。  | (35)        |        |                  |        |             |
| 26. 何か悪いことをしたくなったり、利己的な気持ちになったりした時、神の呼びかけを感じて、反省することがある。                        | (36)        |        |                  |        |             |
| 27. 悲しいことや、不幸なことが私をおそってきても、神が私を守ってくれていると信じれば、心が安らかになる。                          | (37)        |        |                  |        |             |
| 28. 毎日を、精一杯（せいいっぱい）生きてゆくことが、神によろこばれることである。                                      | (38)        |        |                  |        |             |

- |   |   |                  |        |                  |        |               |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
|---|---|------------------|--------|------------------|--------|---------------|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|
| <p>29. 何ごとにも迷わされずに、信念をもって人生をおくためには、信仰が必要であ。</p> <p>30. 神を信じて祈れば、さわやかな気持と勇気が与えられる。</p> <p>31. 世の中では、悪人がさかえたり、善人が不幸であったりするので、どうしても神が信じられない。</p> <p>32. 偉大な宗教的先覚者のことばなどを読む時、心をなぐさめられ、勇気がわいてくる。</p> | <table border="0" style="margin: auto;"> <tr> <td style="text-align: center;">非賛<br/>常成<br/>に</td> <td style="text-align: center;">賛<br/>成</td> <td style="text-align: center;">ど<br/>ち<br/>も<br/>な</td> <td style="text-align: center;">反<br/>対</td> <td style="text-align: center;">非反<br/>常に<br/>対</td> </tr> <tr> <td colspan="5" style="border-top: 1px solid black; height: 10px;"></td> </tr> <tr> <td colspan="5" style="border-top: 1px solid black; height: 10px;"></td> </tr> <tr> <td colspan="5" style="border-top: 1px solid black; height: 10px;"></td> </tr> <tr> <td colspan="5" style="border-top: 1px solid black; height: 10px;"></td> </tr> </table> | 非賛<br>常成<br>に    | 賛<br>成 | ど<br>ち<br>も<br>な | 反<br>対 | 非反<br>常に<br>対 |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| 非賛<br>常成<br>に   | 賛<br>成  | ど<br>ち<br>も<br>な | 反<br>対 | 非反<br>常に<br>対    |        |               |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
|   |   |                  |        |                  |        |               |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
|   |   |                  |        |                  |        |               |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
|   |   |                  |        |                  |        |               |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
|   |   |                  |        |                  |        |               |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |

備考 (1) 各下位尺度に属する項目はつぎの通り。

F尺度：項目1—9

M尺度：項目9—17

A尺度：項目17—25

E尺度：項目25—32

(2) 項目9,17,25は2つの下位尺度にまたがる。

(3) 項目20,24,31は“基督教徒の心情”に反する内容であるので、回答の数値は他と逆になる。

尺度粗点は、それぞれの項目に、「ひじょうに賛成」から「ひじょうに反対」までの五段階回答肢を付し、それぞれ、キリスト教の信仰内容に、より近いと思われるものから順に5から1までの整数値を与え、その総合点と各尺度の分布を調べた。(Table 8)

さて第1型式総合点の分布を、本校の中学部、高等学部と他のキリスト教主義学校の中学、高校とをくらべてみるとつぎのようになる。(Fig. 1,2)

二つの図から理解できることは、基督教主義学校の中学生および高校生の場合、その総合点の分布に関しては、大体において類似していることである。

つぎに本学院内で、各学年別に本人の宗教別にわけて総合点を図にしてみるとやはり、本人の宗教がキリスト教の場合はそうでない者にくらべてかなり総合点が高くなっていることに気付く。(Fig. 3,4)

大学生の場合は、他校の結果がないため比較ができないが、各学年別に大学に入ってはじめてキリスト教に接した者と、中学高校をキリスト教主義学校ですごした者との総合点の分布を比較してみた。(Fig.5,6,7,8)

Table 8 第1型式総合点の分布

	J.	S.	大学	計
175 - 180	—	—	—	—
165 - 174	2	2	2	6
155 - 164	8	6	14	28
145 - 154	15	14	24	53
135 - 144	35	20	50	105
125 - 134	59	45	90	194
115 - 124	67	92	147	306
105 - 114	87	75	158	320
95 - 104	45	77	161	283
85 - 94	16	38	93	147
75 - 84	15	21	58	94
65 - 74	1	12	16	29
55 - 64	—	6	9	15
45 - 54	1	2	2	5
38 - 44	—	—	—	—
合 計	351	410	824	1585

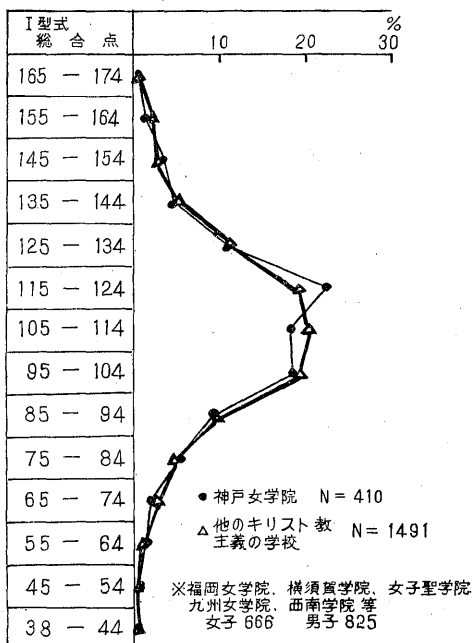
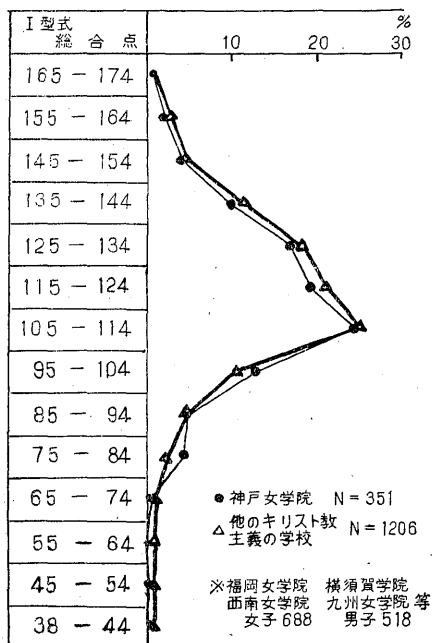
第I 型式総合点の分布 他のキリスト教主義学校との比較  
Fig. 1 J. Fig. 2 S.

Fig. 3 J 本人の宗教別にみた  
第I型式の総合点の分布

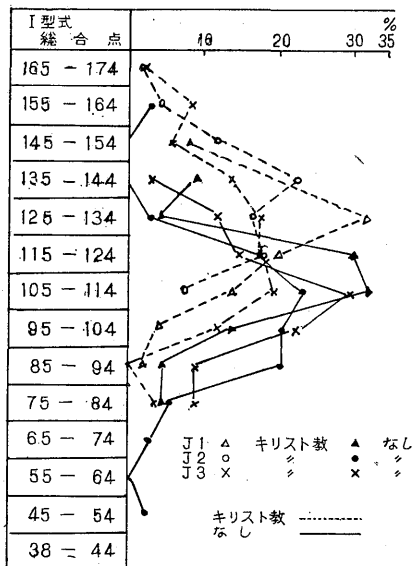


Fig. 4 S 本人の宗教別にみた  
第I型式総合点の分布

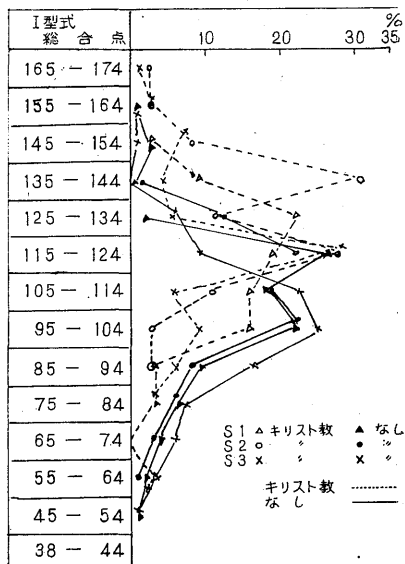


Fig. 5 大学1年生キリスト教主義の  
学校生活年数別にみた総合点の分布

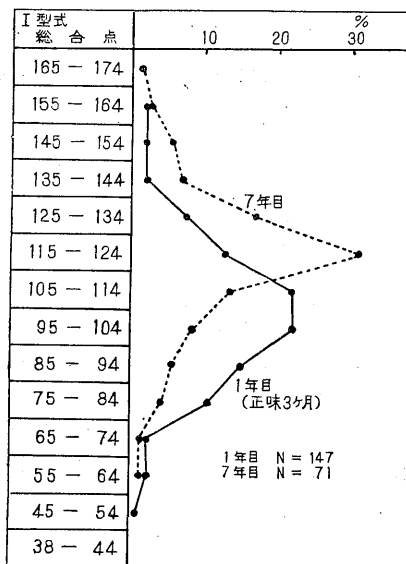


Fig. 6 大学2年生キリスト教主義の  
学校生活年数別にみた総合点の分布

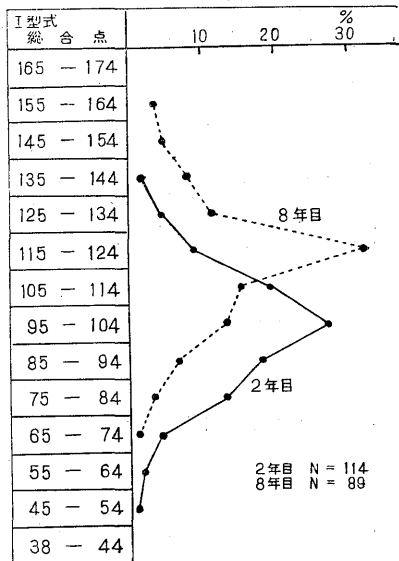


Fig. 7 大学3年生キリスト教主義の学校生活年数別にみた総合点の分布

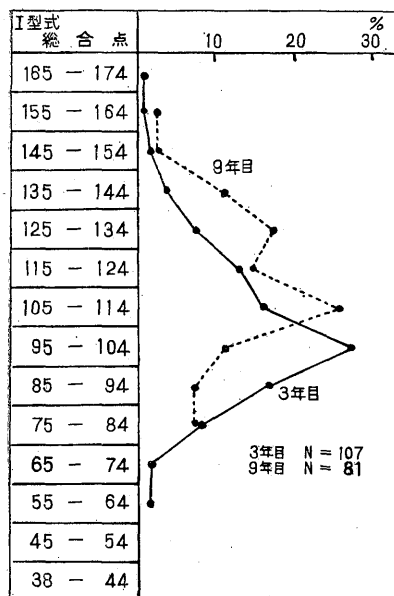
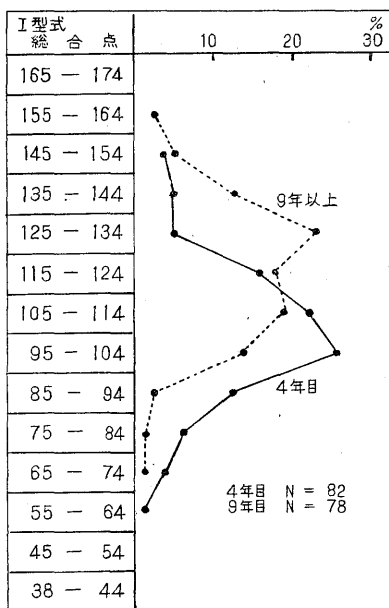


Fig. 8 大学4年生キリスト教主義の学校生活年数別にみた総合点の分布



これらの図できわめて明らかな事は、この両者間に宗教的情操尺度の上で大巾な開らきがあって、いかに中学高校の宗教教育が重要なものであるかが分かる。所で大学の1年生と4年生に関して、本人の宗教をキリスト教とする者とそうでないとする者とを較べてみると (Fig. 9)、第I型式に関する限り無宗教とする者の総合点が、1年生よりも4年生の方が心もち高くなっている。この傾向は第II型式になるとかなり明瞭となる。

さて、第I型式を構成する4因子につきままとめるとつぎのようになる。(Table. 9,10,11,12) これら4因子を中学、高校別に他のキリスト教主義学校と本学院中高部とくらべてみた (Fig.10,11)。ここで気付く事は、中学生に関する限り大体4つの尺度とも、他校と比較してさほど大きな特色はみられない。ただF尺度つまり神の愛への絶対的信頼の分布が、やや高く、高校生に

Table 9 F 尺度 (項目 1—9)

	45—42	41—38	37—34	33—30	29—26	25—22	21—18	17—14	13—8	計
J	12 (3.4)	16 (4.6)	46 (13.1)	96 (27.4)	95 (27.1)	51 (14.5)	27 (7.7)	5 (1.4)	3 (0.8)	351 (100)
S	15 (3.7)	18 (4.4)	40 (9.8)	97 (23.7)	87 (21.2)	74 (18.0)	50 (12.2)	18 (4.4)	11 (2.7)	410 (100.1)
大 学	19 (2.3)	41 (5.0)	75 (9.1)	136 (16.5)	211 (25.6)	174 (21.1)	101 (12.3)	49 (5.9)	18 (2.2)	824 (100)
計	46 (2.9)	75 (4.7)	161 (10.2)	329 (20.8)	393 (24.8)	300 (18.9)	178 (11.2)	73 (4.6)	32 (2.0)	1585 (100.1)

※ F尺度は『神の愛への絶対的信頼』を示す。

Table. 10 M 尺度 (項目 9—17)

	45—42	41—38	37—34	33—30	29—26	25—22	21—18	17—14	13—10	計
J	1 (0.3)	13 (3.7)	37 (10.5)	77 (21.9)	111 (31.6)	74 (21.1)	32 (9.1)	5 (1.4)	1 (0.3)	351 (99.9)
S	2 (0.5)	6 (1.5)	40 (9.8)	68 (16.6)	126 (30.7)	98 (23.9)	46 (11.2)	19 (4.6)	5 (1.2)	410 (100)
大 学	6 (0.7)	21 (2.5)	62 (7.5)	143 (17.4)	225 (27.3)	205 (24.9)	117 (14.2)	36 (4.4)	9 (1.1)	824 (100)
計	9 (0.6)	37 (2.3)	139 (8.8)	288 (18.2)	462 (29.2)	377 (23.8)	195 (12.3)	60 (3.8)	15 (1.0)	1585 (100)

※ M尺度は『神の義と審きに対する畏れの感情』を示す。

Table. 11 A 尺度 (項目 17—25)

	45—42	41—38	37—34	33—30	29—26	25—22	21—18	17—14	13—10	計
J	11 (3.1)	45 (12.8)	86 (24.5)	109 (31.1)	68 (19.4)	29 (8.3)	2 (0.6)	1 (0.3)	— (—)	351 (100.1)
S	6 (1.5)	25 (6.1)	53 (12.2)	115 (28.1)	137 (33.4)	51 (12.4)	19 (4.6)	4 (1.0)	— (—)	410 (99.3)
大 学	10 (1.2)	43 (5.2)	122 (14.8)	276 (33.5)	228 (27.7)	112 (13.6)	29 (3.5)	4 (0.5)	— (—)	824 (100)
計	27 (1.7)	113 (7.1)	261 (16.5)	500 (31.5)	433 (27.3)	192 (12.1)	50 (3.2)	9 (0.6)	— (—)	1585 (100)

※ A尺度は『神への絶対的依属感情』を示す。

Table. 12 E 尺度 (項目 25—32)

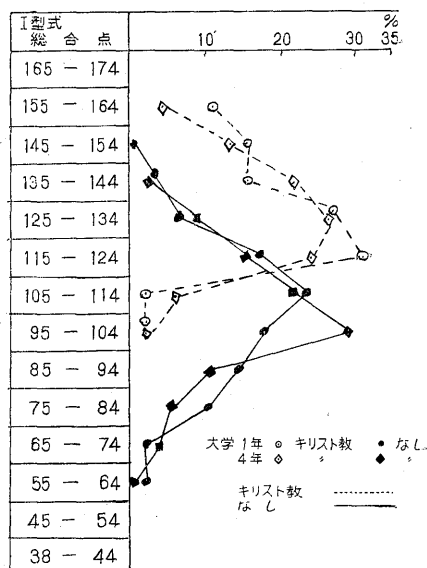
	45—42	41—38	37—34	33—30	29—26	25—22	21—18	17—14	13—8	計
J	— (—)	7 (2.0)	37 (10.5)	64 (18.2)	127 (36.2)	94 (26.8)	16 (4.6)	5 (1.4)	1 (0.3)	351 (100)
S	— (—)	5 (1.2)	19 (4.6)	66 (16.1)	141 (34.4)	107 (26.1)	56 (13.6)	9 (2.2)	7 (1.7)	410 (99.9)
大 学	— (—)	6 (0.7)	51 (6.2)	137 (16.6)	247 (30.0)	265 (32.2)	91 (11.0)	21 (2.5)	6 (0.7)	824 (99.9)
計	— (—)	18 (1.1)	107 (6.8)	267 (16.8)	515 (32.5)	466 (29.4)	163 (10.3)	35 (2.2)	14 (0.9)	1585 (99.9)

※ E尺度は『信仰による平安』を示す。

なると、他校よりも著しく高くなっている。これは本学院建学の精神「愛神愛隣」がかなり受けとめられている故と考えられる。それにひきかえ、本校の高校生に関しては、A尺度つまり神への絶対的依属感情は他校よりも一段低くなっている。

同じ4つの尺度の分布を、本学院の中学、高校、大学の三校で較べてみると (Fig.12) F尺度は大学になって著しく低くなり、A尺度は高くなる。E尺度つまり信仰による平安が大学では非常に低くなっている事は、現代青年の不安を裏書しているように思える。

Fig. 9 大学1年生及び4年生  
本人の宗教別にみた第Ⅰ  
型式総合点の分布



## 結果 2. 宗教的行為インベントリーの調査 (第Ⅱ型式)

キリスト教と関係のある日常生活、もしくはそれに直接影響する行為の諸側面に関する質問項目22個を、安藤延男の原案にしたがって作った。ここでは教会の行事への参加、個人の場での祈り、聖書や信仰書の読書、隣人への奉仕、信者や教会員との交わり、世俗生活に対する主体的積極的な接近などがその主な内容である。

各質問項目には、4段階の回答肢が用意され、キリスト教の立場からみて望ましいとされる内容のものから順に、4点から1点までの整数値が与えられた。したがって個人の項目得点は、その人の記した回答肢の整数値で、また尺度点 (粗点) はそれら整数値の総和で、それぞれ示されることになる\*。

\* cf. 安藤延男 「宗教的行為インベントリーの標準化、『教育・社会心理学研究』第5巻1号 (1965・9) p.62.

Fig. 10 第I型式各尺度分布の他校との比較 (J)

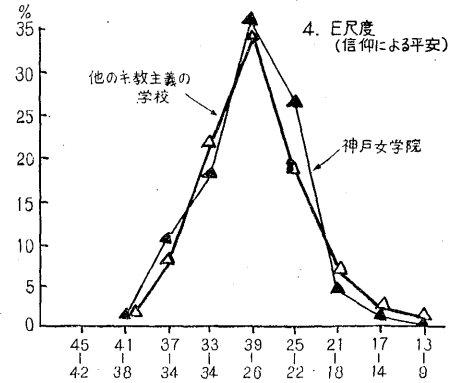
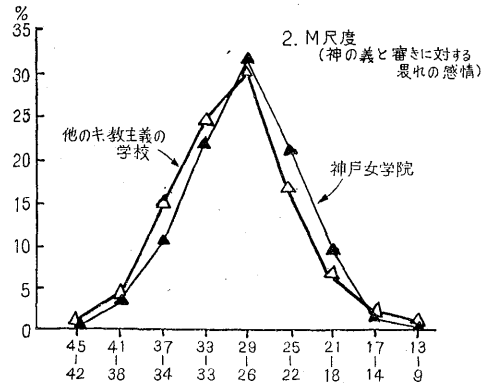
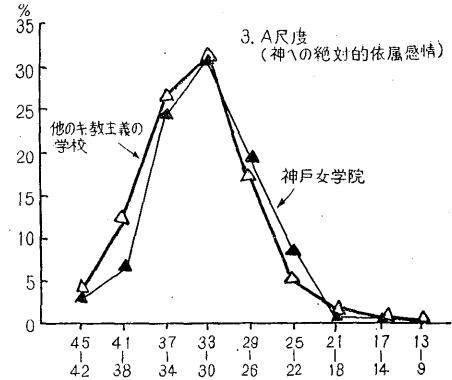
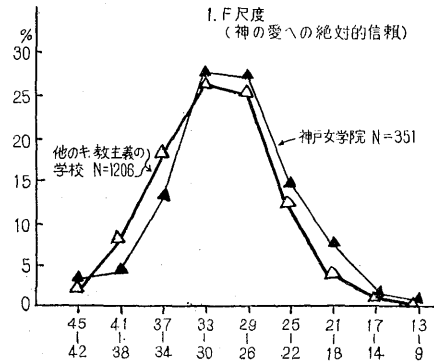


Fig. 11 第I型式各尺度分布の他校との比較 (S)

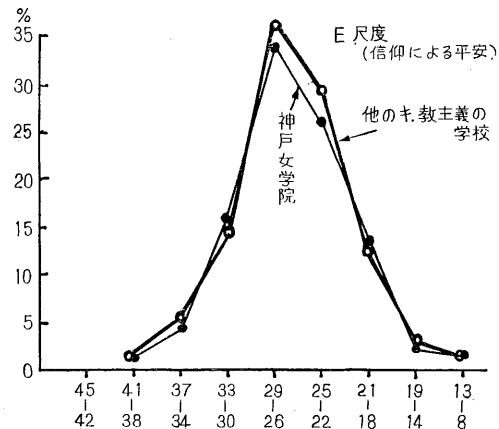
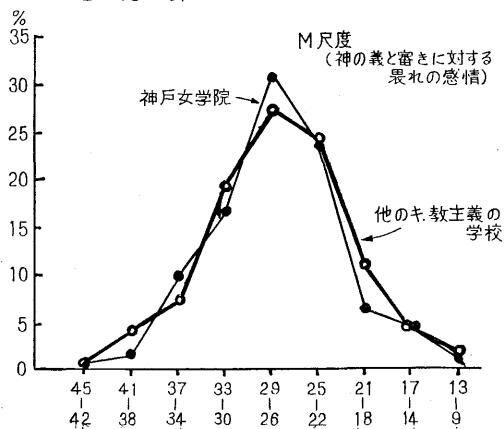
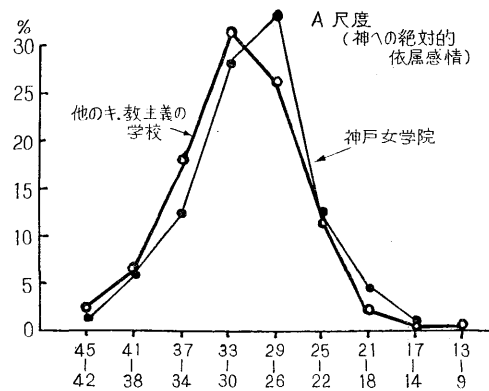
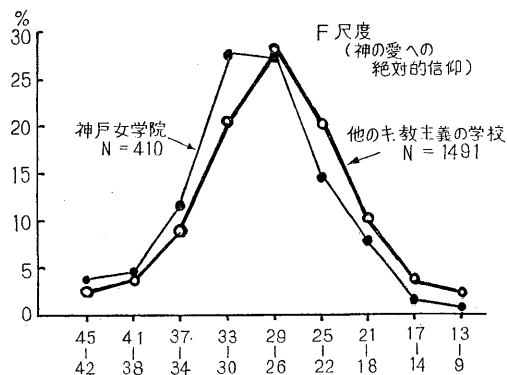
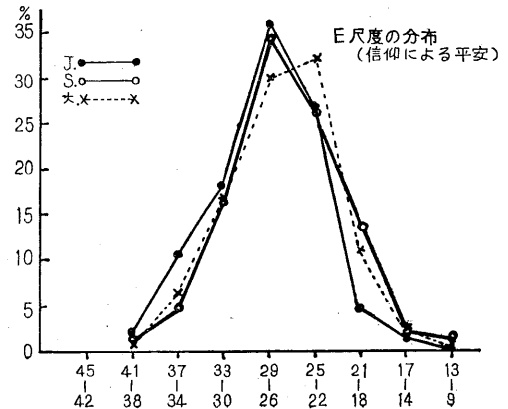
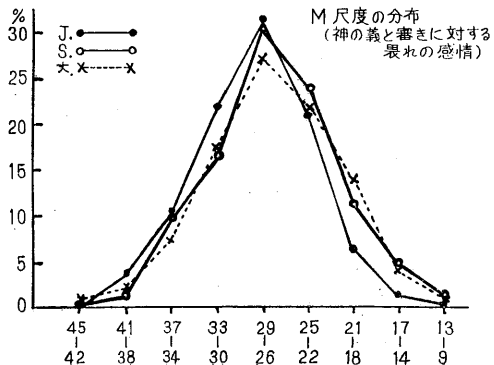
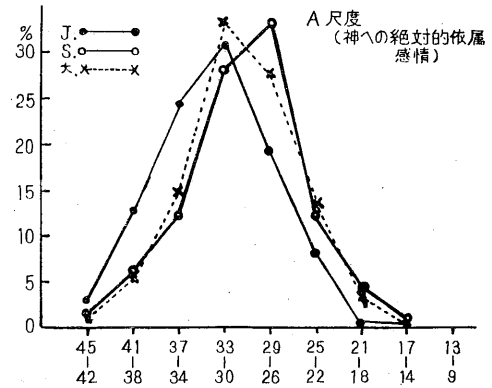
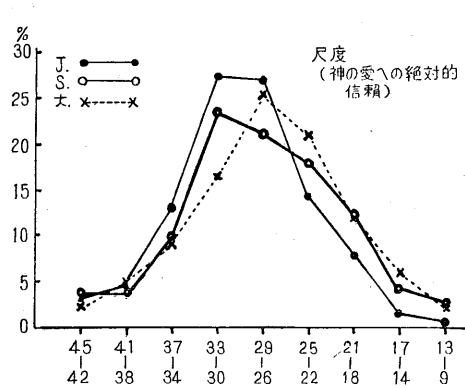


Fig. 12 第I型式各尺度分布の本院院内各校の比較



先ずこの第Ⅱ型式の質問およびその総合点を記すと次のようになる。(Table 13,14)

Table. 13

## 第Ⅱ型式

次に24個の質問があります。その一つ一つを読んで、用意された四個の答の中から、現在のあなたに、もっともよく、あてはまるもの一つを選んで、○印をつけて下さい。抜かさないで、一つ一つ順番に答えて下さい。

1. あなたは、日曜日に、教会（教会学校な (59)  
どをふくむ）に行きますか。  

ほとんど 毎週出席 する	毎週 と言 えない がだいた い……	ときどき 出席する	ぜんぜん 出席しな い
--------------------	--------------------------------	--------------	-------------------
2. あなたは、日曜礼拝以外の教会行事に参 (60)  
加していますか。  

ほとんど 毎回参加 している	毎回 という ほどで はないが だいたい 参加する	ときどき 参加する	ぜんぜん 参加しな い
----------------------	--	--------------	-------------------
3. あなたは、自分ひとりで、聖書を読むこ (61)  
とがありますか。  

ほとんど 毎日読む	毎日 という ほどで はないが よく読む	ときどき 読む	ひとりで 読むこと はない
--------------	----------------------------------	------------	---------------------
4. 聖書から学んだことを、あなたは実際の (62)  
生活に生かそうと努力していますか。  

ひじょう に努力し ている	かなり 努力して いる	あまり 努力して いない	ぜんぜん 努力して いない
---------------------	-------------------	--------------------	---------------------
5. あなたは、食事の時、感謝の祈りをしま (63)  
すか。  

ほとんど 毎回欠か さず祈る	毎回 とい えない がだいた いいつも	ときどき 祈る	ぜんぜん 祈ったこ とがない
----------------------	---------------------------------	------------	----------------------
6. あなたは、自分以外の人たち（例えば、 (64)  
家族、友人、社会、国家など）のために  
祈ることがありますか。  

ひじょう にしばし ば祈る	かなり よく祈る	他人のた めに祈る ことはあ まりない	ぜんぜん ない
---------------------	-------------	------------------------------	------------
7. あなたは、神に対する感謝の気持ちを表 (65)  
わすために、献金をしていますか。  

礼拝献金 の他に毎 月決った 額の献金 をしている	礼拝に出 席した時 は献金を する	ごくまれ にしてい る	ぜんぜん しない
---------------------------------------	----------------------------	-------------------	-------------
8. あなたは、他の人々に対する、何らかの (66)  
奉仕に参加していますか。  

定期的に 参加して いる（毎 週一回と か）	定期的で はないが かなりし ばしば	ときどき 参加す る程度	ぜんぜん 参加しな い
------------------------------------	-----------------------------	--------------------	-------------------

9. あなたは、宗教や信仰について書かれた書物（聖書以外の）を読みますか。(67)
- |             |         |         |          |
|-------------|---------|---------|----------|
| ひじょうにしばしば読む | かなりよむ方だ | あまりよまない | ぜんぜんよまない |
|-------------|---------|---------|----------|
10. 自分が何か困ったり、ゆきづまったりしたとき、あなたは、まず、神に祈りますか。(68)
- |               |           |          |         |
|---------------|-----------|----------|---------|
| そういうときは必ず神に祈る | だいたいいつも祈る | めったに祈らない | ぜんぜんしない |
|---------------|-----------|----------|---------|
11. 「いっしょに仕事（または勉強）をするなんて、まっぴらだ」と思われるような人とも、あなたは、協力して行こうと努力していますか。(69)
- |               |               |          |           |
|---------------|---------------|----------|-----------|
| いつもそのよう努力している | ときには努力することがある | あまり努力しない | ぜんぜん努力しない |
|---------------|---------------|----------|-----------|
12. あなたは、牧師や信者の人と、信仰のことについて、個人的に、話し合ったりしますか。(70)
- |                |         |           |         |
|----------------|---------|-----------|---------|
| ひじょうにしばしば話している | かなりよく話す | あまり話し合わない | ぜんぜんしない |
|----------------|---------|-----------|---------|
13. あなたは、教会の行事や奉仕にたずさわることに喜びを感じますか。(71)
- |             |           |         |          |
|-------------|-----------|---------|----------|
| ひじょうに喜びを感じる | かなり喜びを感じる | あまり感じない | ぜんぜん感じない |
|-------------|-----------|---------|----------|
14. あなたは、学生、生徒として、学校生活や勉学に全力をつくそうと努力していますか。(72)
- |             |           |           |         |
|-------------|-----------|-----------|---------|
| ひじょうに努力している | かなり努力している | 少しは努力している | ぜんぜんしない |
|-------------|-----------|-----------|---------|
15. あなたは、本気になって、おみくじや占い（うらない）をすることがありますか。(73)
- |           |          |           |         |
|-----------|----------|-----------|---------|
| ひじょうにしばしば | ときどきしてみる | 本気とはあまりない | ぜんぜんしない |
|-----------|----------|-----------|---------|
16. よその地方に災害（水害や地震など）が起った時あなたは、救援物資・寄附金などに協力しますか。(74)
- |             |             |              |              |             |
|-------------|-------------|--------------|--------------|-------------|
| ほとんども毎回協力する | 毎回うほどよく協力する | その協力もチャンスがない | ほとんど協力していません | ぜんぜんしたことがない |
|-------------|-------------|--------------|--------------|-------------|
17. あなたは、両親や兄弟と、宗教や信仰のことを話し合いますか。(75)
- |             |         |       |         |
|-------------|---------|-------|---------|
| ひじょうにしばしばする | かなりしばしば | あまりない | ぜんぜんしない |
|-------------|---------|-------|---------|
18. あなたは、自分や家族のものにお祝いごとがあるとき、まず神に感謝しますか。(76)
- |          |         |       |         |
|----------|---------|-------|---------|
| 必ず神に感謝する | だいたいいつも | あまりない | ぜんぜんしない |
|----------|---------|-------|---------|
19. あなたは、学校やクラスの中で、他人のために自分を犠牲（ギセイ）にして、つくそうとしていますか（どんな小さいことでもよい）。(77)
- |             |           |          |         |
|-------------|-----------|----------|---------|
| ひじょうに努力している | かなり努力している | あまり努力しない | ぜんぜんしない |
|-------------|-----------|----------|---------|

20. あなたは、現代の社会問題や政治問題について、自分自身にも責任があると思っていますか。(78)
- ひじょう かなり あまり そうですね  
につよく よく りつ えたこと せんせん  
そう思う そう こと がない 考えた  
がない
21. あなたは、世界の平和のために、自分にできることを、何かしようと思っ  
ていますか。(79)
- つよく そろ そうですね あまり 考 ぜんぜん  
う思っ てる えたこと 考えた  
いる がない ことがない
22. あなたは、キリスト教に対して、現在、  
どう思っていますか。(80)
- キリスト 信仰 しょう どち かと はんぱつ  
教的信仰 うという とうと かん  
によっ 気持はな 無関心  
て生 いがもっ  
きたい と理解し  
たい

Table.14 第Ⅱ型式の総合点の分布

	J	S	大	合 計
8 8 — 7 9	—	1	—	1
7 8 — 6 9	15	13	29	57
6 8 — 5 9	59	54	91	204
5 8 — 4 9	172	161	270	603
4 8 — 3 9	100	153	371	624
3 8 — 2 9	5	27	62	94
2 8 — 2 2	—	1	1	2
計	351	410	824	1585

Fig.13 J 本人の宗教別に見た第Ⅱ型式総合点の分布

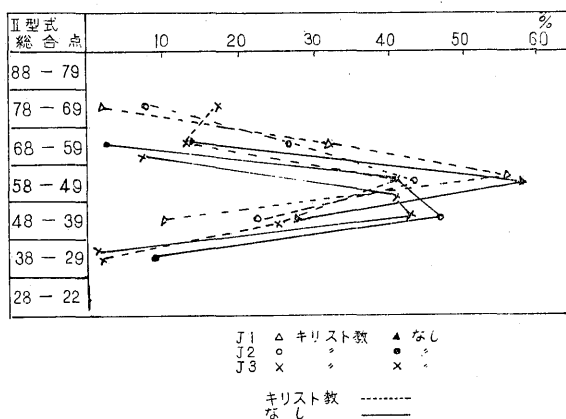
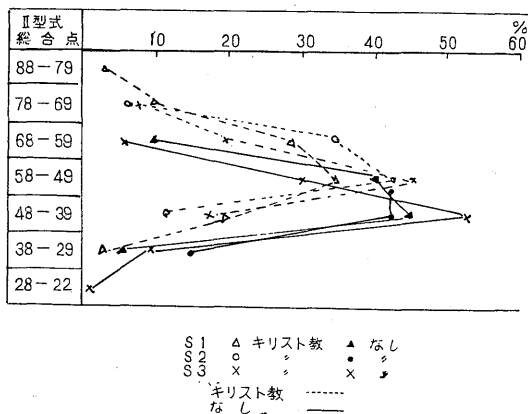


Fig. 14 S 本人の宗教別にみた第Ⅱ型式総合点の分布



さて第Ⅱ型式総合点の分布を、第Ⅰ型式の場合と同様に、本学院の中学と高校において各学別に本人の宗教別にわけて図にしてみると (Fig. 13, 14)、第Ⅰ型式の場合よりもさらに明瞭に本人の宗教をキリスト教とする者とそうでない者との総合点の差が示されている。

大学生の場合も、各学年別に大学に入ってはじめてキリスト教に接した者と、中学高校をキリスト教主義学校ですごした者との総合点の分布を比較してみた (Fig. 15, 16, 17, 18)。この宗教的行為の調査の場合も、第Ⅰ型式の宗教的情操尺度の場合より以上に、この両者間に明らかな開きが認められる。こ

Fig. 15 大学1年生 キリスト教主義の学校生活年数別にみたる総合点の分布

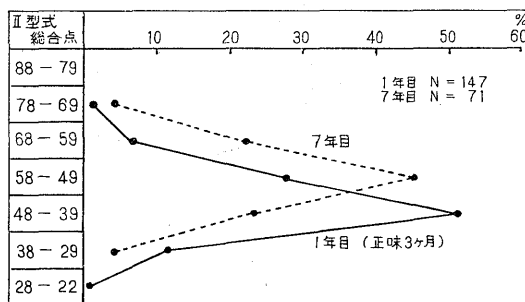


Fig.16 大学2年生 キリスト教主義の学校生活年数別にみた総合点の分布

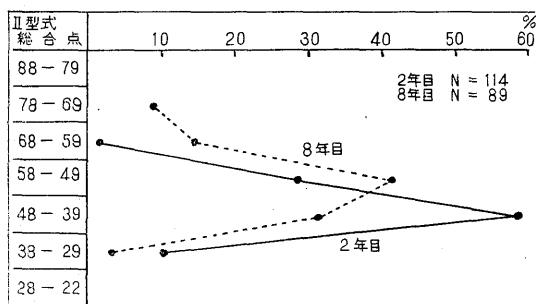


Fig.17 大学3年生 キリスト教主義の学校生活年数別にみた総合点の分布

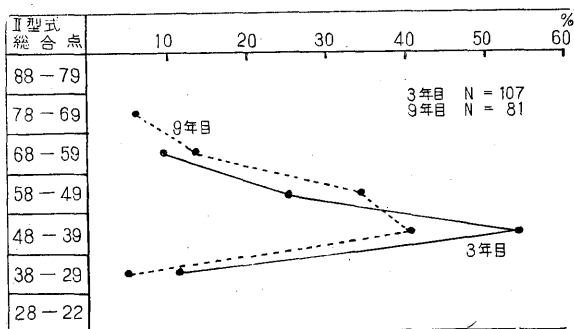
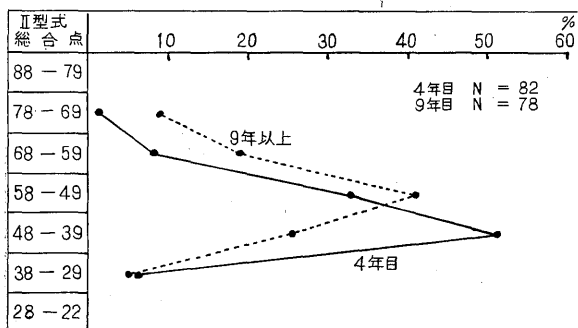
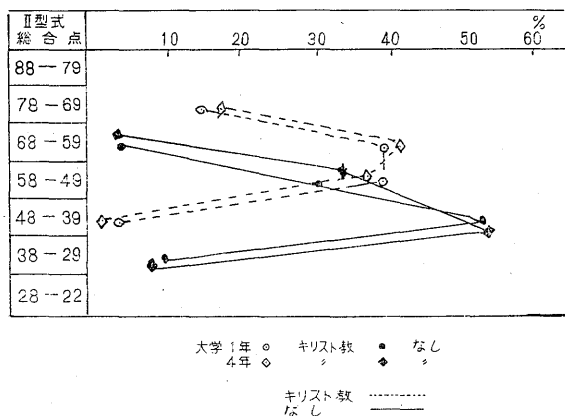


Fig.18 大学4年生 キリスト教主義の学校生活年数別にみた総合点の分布



の第Ⅱ型式の総合点の分布を、1年と4年とを、本人の宗教をキリスト教とする者とそうでないとする者とを比べてみると (Fig.19)、両者ともに1年生よりも4年生の方が総合点でかなり高くなっている事を学び、宗教々育担当者のよろこびとなる。

Fig.19 大学1年生及び4年生、本人の宗教別にみた第Ⅱ型式総合点の分布



次に第Ⅱ型式の各項について各学校の得た数をあげてみよう (Table15)。このうちいくつか興味ある点をあげてみよう。日曜日教会にだいたい出席している者が、中学では 70.7%であるが、高校になると 36.5%に減り、大学では 22.4%となってしまう (Table 15の①)。

つぎに自分ひとりで聖書をだいたい読んでいる者は、中学でも16.0%にすぎず、高校では10.0%、大学ではわづかに 7.1%である (Table.15の③)。

一方学生、生徒として学校生活や勉学にかなり努力しているとする者が、中学では75.2%、高校では 70.2%、大学でも 71.5%を占め、かなり高率である (Table 15の⑭)。

現代の社会問題についてかなり責任があるとする者は、中学では27.9%、高校29.0%、大学では28.2%である (Table 15の⑳)。

キリスト教に対して、かたくキリスト教信仰によって生きようとする者と、

信仰しようという気持はないがもっと理解したいとする者が、中学では 82.6 %、高校では67.1%、大学でも 69.4%を占め、宗教教育担当者の大きな責任が感ぜられる (Table 15の②)。

Table. 15 (1) あなたは日曜日に教会（教会学校など）に行きますか

	4. ほとんど 毎週出席する	3. 毎週とは 云えないが 大体	2. ときどき 出席する	1. ぜんぜん 出席しない	計
中 学	96	152	84	19	351
高 校	64	86	144	117	411
大 学	88	95	214	421	818
計	248	333	442	557	1580

(2) あなたは日曜礼拝以外の教会行事に参加していますか

	4. ほとんど 毎回参加し ている	3. 毎回とい うほどでな いが大体	2. ときどき 参加する	1. ぜんぜん 参加しない	計
中 学	18	46	164	123	351
高 校	16	48	132	215	411
大 学	19	47	123	629	818
計	53	141	419	967	1580

(3) あなたは自分ひとりで聖書を読むことがありますか

	4. ほとんど 毎日読む	3. 毎日とい う程ではな いがよく読 む	2. ときどき 読む	1. 一人で読 む事はない	計
中 学	11	45	248	47	351
高 校	10	31	254	116	411
大 学	6	52	493	267	818
計	27	128	995	430	1580

(4) 聖書から学んだ事をあなたは実際の生活に生かそうと努力していますか

	4. ひじょう に努力して いる	3. かなり努 力している	2. あまり努 力していない	1. ぜんぜん 努力してい ない	計
中 学	10	109	213	19	351
高 校	7	128	227	48	410
大 学	8	194	484	132	818
計	25	431	924	199	1579

(5) あなたは食事の時、感謝の祈りをしていますか

	4. ほとんど 毎回欠かさ ず祈る	3. 毎回とは いえませんが 大体いつも	2. ときどき 祈る	1. ぜんぜん 祈ったこと がない	計
中 学	18	21	135	177	351
高 校	17	12	111	271	411
大 学	46	90	250	432	818
計	81	123	496	880	1580

(6) あなたは自分以外の人たち（例えば家族、友人、社会、  
国家など）のために祈ることがありますか

	4. ひじょう にしばしば 祈る	3. かなりよ く祈る	2. 他人のた めに祈ること はあまり しない	1. ぜんぜん しない	計
中 学	45	184	96	26	351
高 校	43	213	99	56	411
大 学	56	366	251	145	818
計	144	763	446	227	1580

(7) あなたは神に対する感謝の気持ちを表わすために  
献金をしていますか

	4. 礼拝献金 の他に毎月 定額の献金 をする	3. 礼拝に出 席した時は する	2. ごくまれ にしている	1. ぜんぜん しない	計
中 学	76	316	11	8	351
高 校	34	322	25	30	411
大 学	83	497	202	36	818
計	133	1135	238	74	1580

(8) あなたは他の人々に対する、何らかの奉仕に参加していますか

	4. 定期的に 参加してい る	3. 定期的で はないがか なりしばし ば	2. ときどき 参加する程 度	1. ぜんぜん 参加しない	計
中 学	4	53	166	128	351
高 校	16	32	223	140	411
大 学	61	73	313	371	818
計	81	158	702	639	1580

(9) あなたは宗教や信仰について書かれた書物（聖書以外）を読みますか

	4. ひじょうにしばしば読む	3. かなりよくむ方だ	2. あまりよくまない	1. ぜんぜんよまない	計
中 学	13	65	198	75	351
高 校	10	93	239	69	411
大 学	13	171	505	129	818
計	36	329	942	273	1580

(10) 自分が何か困ったり、ゆきづまったりしたとき、あなたはまず神に祈りますか

	4. そういう時は必ず祈る	3. だいたいいつもそうする	2. めったに祈ったりしない	1. ぜんぜんしない	計
中 学	52	139	134	26	351
高 校	46	129	161	75	411
大 学	43	235	357	183	818
計	141	503	652	284	1580

(11) 一緒に仕事（又は勉強）をするなんてまっぴらだと思われるような人々とも、あなたは協力して行こうと努力していますか

	4. いつもその様に努力している	3. ときには努力している	2. あまり努力しない	1. ぜんぜん努力しない	計
中 学	64	169	101	17	351
高 校	94	198	94	24	410
大 学	213	373	208	24	818
計	371	740	403	65	1579

(12) あなたは牧師や、信者の人と信仰のことについて個人的に話しあったりしますか

	4. ひじょうにしばしば	3. かなりよく話し合う	2. あまりしない	1. ぜんぜんしない	計
中 学	3	28	118	202	351
高 校	12	103	158	137	410
大 学	15	124	330	349	818
計	30	255	606	688	1579

- (13) あなたは教会の行事や奉仕にたずさわることに喜びを感じますか

	4. ひじょうに喜びを感じる	3. かなり喜びを感じる	2. あまり感じない	1. ぜんぜん感じない	計
中 学	22	107	187	35	351
高 校	27	94	220	69	410
大 学	28	162	408	220	818
計	77	363	815	324	1579

- (14) あなたは学生、生徒として学校生活や勉強に全力をつくそうと努力していますか

	4. ひじょうに努力している	3. かなり努力している	2. わしは努力している	1. ぜんぜんしない	計
中 学	64	200	84	3	351
高 校	77	211	113	9	410
大 学	111	474	331	3	818
計	252	885	230	15	1579

- (15) あなたは本気になっておみくじや占をすることがありますか

	1. ひじょうにしばしば	2. ときどきしてみる	3. 本気にすることはあまりない	4. ぜんぜんしない	計
中 学	9	67	156	119	351
高 校	14	87	160	149	410
大 学	8	167	346	297	818
計	31	321	662	565	1579

- (16) よその地方に、災害が起った時、あなたは救援物資、寄附金などに協力しますか

	4. ほとんど毎回する	3. 毎回という程ではないがよく協力する	2. その様な事に協力しようとしてもあまりチャンスがない	1. ぜんぜんしたことがない	計
中 学	62	188	100	1	351
高 校	68	247	91	10	410
大 学	92	491	226	9	818
計	222	926	417	20	1579

(17) あなたは両親や兄弟と宗教や信仰のことを話し合いますか

	4. ひじょうにしばしばする	3. かなりしばしばする	2. あまりしない	1. ぜんぜんしない	計
中 学	7	71	165	108	351
高 校	17	89	187	117	410
大 学	11	153	443	211	818
計	35	313	795	436	1579

(18) あなたは自分や家族のものにお祝いごとがあるとき、まず神に感謝しますか

	4. 必ず神に感謝する	3. だいたいいつも	2. あまりしない	1. ぜんぜんしない	計
中 学	17	61	182	91	351
高 校	20	59	173	158	410
大 学	25	116	366	311	818
計	62	236	721	560	1579

(19) あなたは学校やクラスの中で他人のために自分を犠牲にしてみようとしていますか（どんな小さなことでもよい）

	4. ひじょうに努力している	3. かなり努力している	2. あまり努力していない	1. ぜんぜんしない	計
中 学	13	103	219	16	351
高 校	9	134	244	23	310
大 学	19	244	508	47	818
計	41	481	971	86	1579

(20) あなたは、現代の社会問題について自分自身にも責任があると思っていますか

	4. ひじょうに強く思う	3. かなり強く	2. あまり考えたことがない	1. そういう事は全然考えない	計
中 学	22	76	221	32	351
高 校	23	96	248	43	410
大 学	27	204	523	64	818
計	72	376	992	139	1579

(21) あなたは世界の平和のために自分に出来ることを何かしようと思っていますか

	4. 強くそう思う	3. そう思う	2. あまり考えた事がない	1. ぜんぜん考えた事がない	計
中 学	56	186	95	14	351
高 校	65	207	120	18	410
大 学	78	459	254	27	818
計	199	852	469	59	1579

(22) あなたは、キリスト教に対して現在どう思っていますか

	4. キリスト教的信仰によってかたく生きていきたい	3. 信仰しようという気持ちはないがもっと理解したい	2. どちらかというと無関心	1. はんぱつを感じる	計
中 学	68	222	38	23	351
高 校	74	202	90	40	410
大 学	141	427	212	38	818
計	282	856	340	101	1579

### 結果 3. リファレンス・グループの調査 (第Ⅲ型式)

宗教的態度およびその形成に対するリファレンス・グループの影響を調査した。この調査に使用された心理学的尺度は、集団規範尺度とリファレンス・グループ尺度とである。前者は、成員集団や非成員集団のキリスト教化の規範についての、個人の知覚を発見するためのもので、第Ⅲ型式の質問の第1問にあたる (Table 15)。後者は、その第2問であって、回答者はこの質問に先立って、集団規範尺度で取扱われた諸集団のうち、自分自身にとって、最も関係の深いものから4個の集団をえらび、一対比較のため対(pair)をつくる。したがって、計6個の対ができることになる。1個の比較における被選択を1点とすると、1つの集団の最大可能得点は3、最小可能得点は0となる。引分けのときは、0.5 となる。これらの比較で3点を得た集団を、その個人の第1リファレンス・グループと名づけた。そして第1問から得たキリスト教に対するポジティブ、中立、ネガティブの三つのグループにおいて、第1型式の得点

がどのようになっているか、そしてそれぞれの第1リファレンス・グループは何かを研究した。\*

\* 安藤延男 “宗教的態度形成におよぼすリファレンス・グループの影響” 『教育・社会心理学研究』第1巻1号 (1960,6) p.85.

第Ⅲ型式の質問はつぎの通りである。

第 Ⅲ 型 式

Table 15 宗教的態度に関連した質問

1. 次のような意見があります。

意見「この学院の生徒は、洗礼を受けて、キリスト教の信者になることが望ましい」  
この意見について、他の人や、他のグループの人々はどう考えているようにみえますか。まず自分の考えていることを答え、つづいて他の人々が考えていると思われることを答えて下さい。

答は、回答欄に次の a、b、c、m、x、y、z の記号で記入して下さい。

a	b	c	m	x	y	z	o
その意見にひじょうに賛成	かなり賛成	まあまあ賛成	賛成でもないが、反対でもない	やや反対	かなり反対	その意見にひじょうに反対	わからない

自分	学校	父	母	父母以外の家族	親戚	親友	学級又は同学年の人	先生	大部分の上級生	大部分の下級生	世間の人

2. この質問は、宗教的問題について、あなたにとって、いちばん関係のふかいのはどういう人々か、どういうグループかをみつけるためのものです。

質問に答えるまえに、次の集団（または人々）のなかから、いちばん関係の深いと思われる人々かグループかの4つをえらんでイ、ロ、ハ、ニの（ ）の中に記入して下さい。

学校、父、母、父母以外の家族、親戚、親友、学級、先生、教会、世間の人、その他  
(具体的に )

イ ( ) ロ ( ) ハ ( ) ニ ( )

質問 あなたは、キリスト教の信者に、(自分が)なるか、ならないかという問題では、  
上記4グループの中、次の2つのグループのどちらの考えに強く従いますか。従う方  
に○をつけて下さい。もしいくら考えてもきまらないときは、———の上に×印を  
つけて下さい。

イ ————— ロ イ ————— ニ ロ ————— ニ

イ ————— ハ ロ ————— ハ ハ ————— ニ

これら調査の結果、自分がキリスト教信者になることに、賛成、どちらでも  
ない、反対の三種類を、それぞれ学年別にその数と、その第Ⅰ型式の得点の平  
均を調べるとつぎのようになった。(Table 16)

Table 16

自分がキリスト 教信者にな ることに		(賛 成) P	(どちらで もない) M	(反 対) N
J. 1	N	31	16	14
	M n	123.39	120.69	111.43
J. 2	N	23	12	26
	M n	127.87	119.67	111.12
J. 3	N	32	20	12
	M n	122.28	109.60	107.42
S. 1	N	25	15	19
	M n	114.48	105.20	104.42
S. 2	N	31	17	14
	M n	123.65	113.24	110.71
S. 3	N	31	27	22
	M n	116.97	112.96	104.05
大 1	N	30	24	32
	M n	125.20	107.08	104.06
大 2	N	37	17	30
	M n	123.24	107.18	102.07

大 3	N M n	37 118.86	30 106.90	24 107.00
大 4	N M n	46 121.02	32 109.28	19 111.74

N = 実数

Mn= 平均 (第一型式による得点)

ここで明らかになる事は、やはりポジティブな立場の者の第 I 型式の得点はかなり高く、ネガティブなものの得点は低いことである。

最後にこれら三つのグループにおける第 1 リファレンス・グループの研究をみると (Table 17)、まずキリスト教にポジティブなものの第 1 リファレン

Table 17 第 1.R.G.と規範

		学校	父	母	父母以 外の家 族	親戚	親友	学級又 は同学 年の人	先生	教会	世間 の人	その他	計
ポジ ティ ブ	J	13	2	6	—	1	5	—	12	42	—	5	86
	S	3	3	6	4	—	18	—	3	49	—	1	87
	大	6	7	13	3	1	21	1	31	64	—	3	150
中 立	J	2	10	22	2		5		3	—	—	4	48
	S	—	11	27	7		11	1	1	—	—	1	59
	大	—	22	32	11	3	30	1	4	—	—	—	103
ネ ガ ティ ブ	J	—	15	23	1	—	12	—	—	—	—	—	51
	S	—	13	19	2	—	20	—	—	—	1	—	55
	大	—	32	38	8	1	23	1	1	—	—	1	105
P	学院 J.S.大	22	12	25	7	2	44	1	46	155		9	323
M	J.S.大	2	43	81	20	3	46	2	8	—	—	5	210
N	J.S.大	—	60	80	11	1	55	1	1	—	1	1	211
	計	24	115	186	38	6	145	4	55	155	1	15	744

ス・グループは、中学、高校、大学を通じて圧倒的に多いのが教会であり、学校における宗教教育においてもやはり教会の占める位置は高くかつ重大である。つづいて中学では、学校と先生とが第 1 リファレンス・グループとなつて

いるが、高校以上になると学校の影響は少なくなって逆に親友の占める割合が高くなる。大学になると、親友とともに先生と母が第1リファレンス・グループとしてかなり大きな役割を演じている。

ネガティブなものの場合の第1リファレンス・グループは、中学、高校、大学共に、父母となり、親友が高校、大学に限り、ポジティブな場合とほぼ同数となっている。

## 要 約 と 結 論

宗教は、人間の精神生活の全機能の深層においては、いかなる所でも存在するのであって、それら諸機能の深層の次元に属するものである故に、この調査に制約されない深層の存する事は事実である。しかしこの調査から得たいくつかの結果については、我々宗教々育担当者が特に留意せねばなるまい。先ず第一は中学、高校時代に得た宗教々育の影響は、本人が宗教的であるとないつかかわらず、大学になっても、宗教態度や行為において、高い位置にあることである。中学、高校での宗教々育の重要性が再認識された。

大学生の宗教態度において、安易な信仰による平安が求められていない事に気付く。現代に生きる大学生のもつ不安に真実に直面し、それに対処する力が求められているのではないか。

宗教的行為の調査から、大学ではじめてキリスト教に接した者も、1年と4年とを比べると、やはり4年になるとその分布が高くなっているのは、我々にとっても大きなげましではある。しかし本当に我々の考えている宗教教育がこれらの学生の直面している疑問に答え得るのかどうか大きな課題である。

キリスト教に否定的な立場を取る者の、リファレンス・グループが、中学、高校、大学共に、父あるいは母である場合が多いのは、考えさせられる。逆にキリスト教に肯定的な立場を取る者のリファレンス・グループは、教会が筆頭であり、大学ではつづいて先生、親友となっている。今後の宗教々育の方向づけに考慮すべきであろう。

\* P.Tillich, *Theology of Culture*, p.7.

(本論文作製にあたり、学校当局および西山美瑛子助教授の御援助を得た事を心から感謝する次第である。尚調査方法上便宜を与えられた九大安藤延男氏に敬意を表したい。)

Mizoguchi, Yasuo  
Shigeru, Hiroshi

## **Survey of Students' Attitudes Toward Christianity and Christian Activities at Kobe College**

### **Résumé**

This is a survey of Kobe College junior-senior high school department and college department. A total of 412 girls in junior high (96.5 % of total enrollment), 470 in senior high (97.1 %) and 995 in college (89.2 %) were examined.

Religion is the dimension of depth of man's spiritual life. It is impossible to measure the depth of a human soul through a survey. However, this survey reveals several factors affecting students' thinking concerning Christianity.

Compared with freshman entering the college department from other high schools, students entering from the Kobe College senior high school manifest a more marked Christian consciousness, whether they themselves are Christian or not.

Secondly, college girls feel anxiety and are not satisfied with superficial Christian teachings.

Students who entered from outside high schools, show an increasing Christian consciousness during their four years of college.

It was discovered that of students who are negative toward Christianity, the first reference group (the most influential group) was their parents. Of students who are positive toward Christianity, the primary reference groups were the Church, teachers, and friends.